

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104034		
法人名	(株)セービング		
事業所名	グループホーム小月		
所在地	山口県下関市小月宮の町7-3		
自己評価作成日	平成25年2月23日	評価結果市町受理日	平成25年10月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・毎食入居者の方と食事を作り3食完全手作り料理 ・毎日数名の入居者の方と買い物に出かけます ・掃除、洗濯も全員の方に参加していただいています ・天気の良い日は、外に散歩にでかけています ・毎日、レクリエーション、体操、足浴を取り入れ笑顔ですごしていただいています ・地域施設との交流や行事への参加 ・地域のボランティアの来所や地域行事への参加交流 ・家族会の開催を行い家族同士、職員、入居者との交流、情報交換を行っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日頃の利用者の言葉や行動から本人の希望や意向の把握に努めておられ、ミーティングで検討され、利用者の思いを共有して介護計画に反映され、日々のケアの実践につなげておられます。2ヵ月に1回、行事を兼ねた家族会を行っておられ、全家族が参加されて利用者と一緒に行事や外出を楽しまれている他、事業所との信頼や協力関係を深めておられます。事業所には家族や親族、知人など多くの来訪があり、職員は面会時に取った写真を送付して、さらに電話や手紙などでの交流につなげる支援をしておられます。利用者は事業所開所以来、異動もなく、家族の協力を得て馴染みの関係を継続しながら、事業所での穏やかな生活を送っておられます。どの人も参加できるように外出支援に取り組み、地域の夏祭りや文化祭への参加の他、近隣の特別養護老人ホームの音楽会に利用者全員で参加するなど、地域行事への参加や交流に力を入れておられます。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で作った理念を常に持つために毎朝礼時など全員で唱和し共有している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念を全職員でつくり、管理者と職員は理念とそれを踏まえた年間目標を朝の申し送りで唱和して共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事(祭り・文化祭など)はできる限り参加し、地域の方々と交流をしている。地元のボランティアの方々が月に1回来所や中学生の職場体験を行い地域の方との交流を図っている。また、地域の清掃活動にも参加している。また地域の施設との交流も図っている	自治会に加入して清掃活動に参加したり、地域の夏祭りや文化祭に利用者と一緒に参加している。生け花、マンドリン、コーラス、紙芝居、小月平家太鼓、大正琴などのボランティアの来訪があり、併設施設の利用者と共に交流している。専門学校の実習生や中学生の職場体験を受け入れている。近隣施設の音楽会に利用者全員で参加したり、職員同士の交流をしている。近くのスーパーに買い物に行った時や散歩の時に、地域の人に挨拶や声かけをして日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の参加者の増員と認知症への理解を深めて頂くように勉強会や講習会を行っている		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価を全員に説明し職員全員で自己評価の見直し話し合いを行い改善点などを検討し改善を行っている	自己評価は管理者が職員に説明して実施しているが、全職員が評価の意義を理解して自己評価に取り組んでいるとはいえない。前回の外部評価結果を運営推進会議で報告し、職員に配布して月1回のミーティングで話し合っており、普通救命受講の更新や地域との交流の拡大などの課題に取り組んでいる	・全職員での自己評価の取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月の報告だけでなく問題点・地域が協力してほしい点など話し合い地域密着が深まるよう活かしている。また、地域の商工会長や小月消防団長などの参加も行い地域とのつながりも向上している	2ヶ月に1回開催し、状況報告、行事報告、外部評価結果報告などを行い、意見交換をしている。地域行事の情報提供を得て、利用者の参加につなげたり、事業所の行事や避難訓練への参加や協力の呼びかけをしたり、代表者が老人会の認知症講演会に出向くきっかけになるなど、運営推進会議を活かして地域との関係づくりを推進し、サービス向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常日ごろ入居状態や状況・事故報告などを行い市へ連絡及び相談など行っている。また、運営推進会議に地域包括支援センターの所長に参加していただいている	運営推進会議に地域包括支援センターの出席があり情報交換をしている。市担当課とは、グループホーム協会の会議等で情報交換をしたり、メールや出向いて相談をして指導や助言を得るなど、協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し利用者の生命・身体を保護する為、緊急やむを得ない場合を除き身体的拘束を行ってはならないことは理解している。玄関や勝手口などの施錠はしていない	マニュアルがあり、職員は身体拘束をしないケアについて内部研修やミーティングで学んで理解している。スピーチロックがないように言葉かけに配慮しており、気になるところがあれば管理者が指導したり、職員同士で注意しあっている。玄関に施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は高齢者虐待を発見しやすい立場であることを自覚し虐待の早期発見に努めなければならない。事業者にて虐待と知らずに行い不適切なケアにならないよう虐待の行為について正しく理解し防止に努めている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月行う研修に実施。マニュアルを設置		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、時間にゆとりをとり説明し代表者、管理者、所長の3名で対応し不安や疑問があれば十分説明をおこない理解を得ている		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの相談・苦情の受付は随時行っている。また、2ヵ月に1回家族会を行い意見や要望を聞く機会を設けている。要望があった場合速やかに話し合いを行い改善に努めている	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。2ヵ月に1回、全家族が参加して行事を兼ねた家族会を行い、意見や要望を聞く機会としている他、意見を言いやすい雰囲気をつくり、電話や面会時、介護計画見直し時などで個別に意見や要望を聞いて対応している。運営に反映させるまでの意見は出ていない。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで意見を出してもらい反映させている。日々の業務の中でも個々の意見を聞くよう心がけている。	月1回のミーティング時に意見や提案を聞く機会を設けている他、日常的に意見を言いやすい雰囲気づくりをし、業務の中で聞いている。意見や提案はリーダーが管理者や運営者に伝え、掃除機の購入や勤務体制など反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や個々の職員の努力や勤務状況を把握し、働きがいのある職場づくりに努めている。また、改善すべき点があった場合は素早く改善しよりよい環境整備に努めている		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回全体ミーティングを決め研修を行う。また、外部研修も常に回覧しできるだけ交替で参加ができるよう配慮している。外部研修後は、ミーティングにおいて報告し全員で共有をする	外部研修は情報を提供し、希望に合わせて勤務の一環として参加する機会を提供している。受講後はミーティングで報告して職員間での共有を図っている。法人施設間で職員の交流を行い、ノロウイルスやインフルエンザについての勉強会を行っている。内部研修はミーティング終了後30分程度、テーマを決めて実施している。新人職員は法人研修を受講後、1ヶ月程度リーダーが指導し、働きながら学べるよう取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老・グループホーム協議会に入会し積極的に参加交流しています。よい点を取り入れています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の目線に合わせ、思いを聴き、利用者の立場になって丁寧にゆっくりと話すよう心掛けている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを真摯な態度で受け止め安心して任せて頂けるように信頼関係を築くよう努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	代表者、管理者、職員や各関係機関に相談・連絡し本人・家族が必要としているサービスの検討を行い最善な答えを見つけるよう努めている		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に買い物や掃除・調理などを行い家庭的な日常生活を送ることができるように支援している。出来ることなどがあれば行っていたき助け合いながら生活が出来るように工夫している		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業社内にて入居者と家族の触れ合う機会を持ち活き活きとした生活を送ることができるように支援している。年に2回家族会の行事として外食や大掃除など全員参加で行っている。その他、誕生日かなどの参加もしている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	旧友や親族などが来られた際は、遠慮なく来所して頂けるように配慮し、またいつでも来れるような環境作りに配慮している	家族や親族、友人、知人など多くの来訪があり、宿泊する人もある。面会時に取った写真を送付して、さらに電話や手紙などでの交流につなげる支援をしている。家族の協力を得て、外出や外泊、法事や葬儀への参加を支援している。デパートや公園、名所、水族館など馴染みの場所への外出を支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中でレクリエーションや家事を通じてお互いを認め合い思いやること出来るように努めている。また、生活歴や性格などの把握をし職員が話の間に入って利用者同士のつながりの向上に努めている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所され契約が終了しても本人・家族の相談や経過などをお聞きしできる範囲把握するように努めている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人にどのような暮らしを望んでいるのかを尋ねている。日頃何をしている時に満足した表情が見られるかをよく観察している。困難な方においては家族や本人の日々の生活などを観察しまとめ職員間で共有し思いや意向を共有化している	入居時に思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、アセスメントにセンター方式を活用する他、日頃の利用者の言葉や行動から、思いや意向の把握に努め、困難な場合は職員がミーティングで本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や居宅介護支援事業所からの情報や本人とのコミュニケーションや施設内での生活習慣などの中から把握している		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の体調に合わせた無理のない生活を送ることができるように現状の把握に努め支援をおこない実施している		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に1度のカンファレンスだけでなくご家族が来られた時は意見を聞き計画にとり入れようとしている	本人や家族の思いや意向を参考にして6か月毎のカンファレンスで話し合い介護計画を作成している。3ヶ月に1回モニタリングを実施し、6ヶ月に1回カンファレンスを行って見直している他、利用者の状況に応じて見直しを行い現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の日々の様子や気づきを記録し職員間で情報交換し業務にあたっている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や外食などに行ったり、病院への受診などのニーズに対して柔軟に対応に努めている		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの訪問や活動などに参加し地域の方たちとの交流の中で地域の一員としての位置付けを行い地域の方にも理解をしていただけるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に家族・本人等より希望のかかりつけ医を確認し受診を行っている。事業者もかかりつけ医を密に報告・連絡・相談を行いながら適切な医療を受けられるよう支援している	本人及び家族の希望するかかりつけ医や状態に応じて他科の医療機関に家族の協力を得て受診の支援をしている。事業所独自の24時間シート改良版の健康チェック表等を活用して家族やかかりつけ医に情報を提供し、受診結果を家族から聞いて共有している。協力医療機関から隔週に往診がある他、緊急時の受診の支援をするなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日常生活の様子を伝え身体的・心理的に異変のあるところを特に注意して見ていただきかかりつけ医師にも情報提供し連携を図っており必要時は受診を行うようにしている		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院や総合病院などと連携し入院や急変時などの対応ができるように日頃から医師との相談・連絡を行っている		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期についての説明を行い家族等に理解をしていただき、地域の方には運営推進会議において当施設の方針説明を行い理解に努めている	ターミナルケアを行う方針を「重度化した場合における指針」に添って入居時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から本人や家族等と話し合い、協力医療機関の協力を得て、職員も安心して看取りの支援ができるようチームで支援に取り組む方針である。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	消防署による普通応急手当講習を全職員に講習を受けており定期的な応急処置においても指導・講習を受けている。また、マニュアルを作成している	ヒヤリハット報告書、事故報告書に記録し、原因や改善点をミーティングで検討して、一人ひとりに応じた事故防止に取り組んでいる。消防署の指導を得て全職員が「止血、骨折応急手当講習」を年2回受講し、ミーティング時に年2回マニュアル等の資料を使って勉強会をしているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	・応急手当や初期対応の定期的訓練の充実

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練で夜間想定訓練やその他風水害による想定訓練を実施。地域住民と協力しての避難訓練を実施を地区の代表と話し合い、実際の火災時の協力体制をお願いしている。地区の消防団の方に運営推進会議の出席をお願いし地区の消防団及び婦人部の方ともに避難訓練実施	避難訓練には利用者も参加し、地域の人に見守りの依頼をしている。運営推進会議のメンバーである地区の消防団や婦人部の参加、協力がある。消防署の協力を得て、年2回、夜間想定を含めて防災、避難、通報、消火訓練を実施している。緊急連絡網を整備し、事業所と法人と地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の方であり、その誇りを傷つけるような話し方はしないように心がけている	接遇マナー研修で、人格の尊重とプライバシーの確保や傾聴について学び、ミーティングで一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について検討して全職員が取り組んでいる。ケアの中で気づきがあれば管理者やリーダーが指導している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必ず、最初に本人に希望を尋ねている。上手に伝えられない場合でも丁寧にゆっくりわかりやすい言葉で話しかければ通じ合い自己決定できるようになる		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出を希望される方、室内でゆっくり過ごしたいという方、各々あり、その日、その時間帯の入居者の様態により支援している		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせてその人らしい服装で身ぎれいにしていただくように支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を選び季節の料理を提供するよう心がけている。利用者の体調をみながら食事の準備・片付けを一緒にしている。一人一人の食事の好みを理解し食事を楽しめるよう工夫している	三食とも、事業所で食事づくりをしている。畑で収穫したネギ、キュウリ、トマトなどの野菜や、利用者と一緒に買い物した食材を使い、利用者の好みや体調を考えた献立で、利用者は下ごしらえや味見、配膳、下膳、洗い片付けなどを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じものを同じテーブルで食べ、会話をしながら食事を楽しんでいる。月1回、焼肉やハンバーガーなどの外食の日を設けている他、誕生日や行事食、弁当などや、ホットケーキ、どら焼き、ケーキなどのお菓子づくりを楽しんでいる。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人一人の状態に合わせて食事量・水分量を確保している。あまり水分を摂られない方は水分を摂ってもらう回数を増やしたりして工夫している		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行い見守りしながら口腔ケアをしている。義歯の方は、はずして磨いてもらうなど磨き残しがないように努め夜間は義歯を洗浄液につける等をして清潔保持を心がけている		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	昨年同様少量の失禁はみられるが、全員トイレにて排泄が出来ている。また、布おむつへの目標を立てトイレにての排泄の継続を目指している	一人ひとりの排泄のパターンを把握し、声かけや誘導をして、昼夜を通してトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時のホットミルクや食事にヨーグルトを提供し便秘予防に努めている。また、適度な体操、歩行練習を行っている。食物繊維の多い食材をよく摂ってもらうよう心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	寝る前に入浴したいという利用者の希望にはそえていない。なかなか難しい部分も多いが個々が入浴を楽しめるように声かけをしたり、話を聞いたり1対1の入居者との時間を大切に負担にならない程度一人一人に合わせて時間をとっている。今後は希望者の意向も聞きながら入浴回数など検討している	13時30分から16時までの間、2日に1回入浴できるように支援している。希望があれば毎日入浴でき、入浴しない日は足浴をしている。入浴したくない人にはタイミングを考え声かけをして、無理強いしないように対応している。入浴剤を使って変化を楽しんだり、柚子湯などの季節の風呂を楽しめるよう支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調、生活習慣に合わせて休んでいただきたいが日の休息などは、他の入居者の行動が気にかかり休めないこともあるが夜間は、声かけし安眠できている		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用は理解するようにわからない事は調べたり薬局などに問合せ把握するよう努めている。服薬後の利用者の様子は特に観察している。また、副作用などが見える場合は迅速に主治医と相談し改善に努めている		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の趣味や好みを理解し、一日に一回は楽しいと思えることを提供しより多く笑顔になるよう心がけている。音楽が好きな方が多いため地域施設の音楽サロンに参加している	花の水やり、カルタ、歌、ぬり絵、貼り絵、計算ドリル、習字など一人ひとりに合わせた楽しみごとや自分の作品を自治会の文化祭に出品するなどの張り合いになるような支援をしている。月1回のコーラス、生け花、マンドリン、紙芝居、小月平家太鼓、大正琴などのボランティアとの交流を通した楽しみや、誕生会、母の日を祝う会、クリスマス会、敬老会、運動会、餅つき大会、豆まきなど季節の行事を行って楽しみごとや気分転換等の支援をしている	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩に出るよう努めている。また、外食や家族と一緒に花見を行っている。	地域の夏祭り、他施設の夏祭りや音楽会などの行事、公民館の行事に参加したり、家族の協力を得て花見(桜、菖蒲、コスモス、紅葉)、イチゴ狩り、梨狩り、考古学博物館などに月1回は利用者全員が外出できるように支援している。大型スーパーや近くのスーパーに買い物に行ったり、月1回の外食や散歩など日常的に外出できるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていないと不安になり、外出して楽しむ気持ちもなくなるが実際に外で本人のお金を使ったことはない。毎日の買い物は商品を選んでもらい支払いをおこなっている		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に年賀状を書いたり、贈り物が届いたときにはお礼の写真入り手紙や電話をしている。家族からの手紙を喜ばれ何度も読み返しておられる方もいるためお礼のはがきや連絡は都度おこなっている		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔であること、季節感が味わえ家庭的な空間であるよう工夫している。居間には常に花や植物を置き緑を取り入れている	共用の空間の壁には利用者の作品の季節の貼り絵を飾り、各所に季節の花を生けている。アイランド型キッチンがあり、利用者は調理の様子を見たり、一緒に下ごしらえや味見をしたり、調理の音や匂いがして生活感を感じることができる。居間兼食堂は広く、畳の間があり、テレビやソファをゆったり過ごせるように配置している。温度や湿度、換気に配慮し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特にここはこうする場所など決まってもものはないがイスに座って気の合った者同士がおしゃべりしたり、ソファで新聞や雑誌を読んだりそれぞれ思い思いに過ごせているように感じる		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に本人が今まで使用していたなじみのある家具をできるだけ用意して頂き、好きなぬいぐるみや写真など居心地よく生活できるよう工夫している	明るい居室に、ベットやダンス、机、椅子、仏壇、鏡台など使い慣れた物を持ち込み、時計、ぬいぐるみ、人形、家族の写真、花などを飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人「できること」や「わかること」を把握して活かせるように声かけしたり、環境づくりをしたりして努めている。出来ることはなるべく自分でしてもらうように心がけている		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名： グループホーム小月

作成日： 平成 25年 10月 1日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	3	評価の意義の理解と活用について全員での自己評価の仕組みができていなく事業所再度の点検となっているため具体的な改善が必要である。	全員に自己評価の意義を理解してもらい活用する	月1回のミーティングにおいて話し合いと設け自己評価をしていき評価したものをまとめて実際の運営やサービスに活用する	6ヶ月
2	15	毎年研修を行っているが、全職員が応急手当や初期対応の実践が身についておらず実際に事故などがあつた場合に対応できず二次災害の発生が考えられる	全職員が応急・初期対応を身につける	ミーティングにおいて実際に不安な項目などを職員より聞き研修につなげていき不安や問題の解決を行う。また、消防署とも連携を図り講習会なども充実をはかる	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。